



# 全体説明

報告者 郡山市 市民部 市民安全課長 植木 一雄



## I 郡山市の概要



面積 757 km<sup>2</sup>(61位)

人口 335,444 人(66位)

※全国791市中の順位

※2015年10月1日 国勢調査人口



福島県の中央に位置し、高速道路、国道、鉄道が交差、交通量が多い



## ○ 地理

- ・ 盆地に中心市街地を形成 (近隣市町村を含む商業圏の中心)
- ・ 郊外には水田が広がる穀倉地帯
- ・ 阿武隈川 (繰り返す水害)
- ・ 猪苗代湖 (市の水源)

## ○ 気候

2015年

- ・ 年間平均気温 12.8℃
- ・ 年間降水量 1,019mm



郊外から望む中心市街地



阿武隈川の治水



出典 郡山市勢要覧2017

- ① 人口ピラミッドは、糸巻型の状態(高齢化、少子化が進行中)
- ② 人口は、自然動態が微減、社会動態が微増、全体では微減傾向
- ③ 2010年の産業別人口割合は、第三次産業69%、第二次産業24%
- ④ 農業従事者数は、2000年の7,638人から2015年では4,372人に減少(農業従事者の高齢化が進行中)
- ⑤ 商品販売額は、2014年で約1兆2,525億円(約113.8億USA\$)(近隣市町村を含む商業圏の中心)
- ⑥ 製造品出荷額は、2014年で約8,544億円(約77.7億USA\$)

郡山市は、商工業都市として発展していますが、全国の地方都市と同様に高齢化、少子化が進み、今後は人口が減少する見込みです。



- ① 郡山市の学校、保育所の数 2017年
 

保育所	61	幼稚園	33	小学校	62
中学校	29	高校	14	大学等	4
- ② 郡山市の病院、診療所の数 2016年
 

病院	22	一般診療所	245	歯科診療所	170
----	----	-------	-----	-------	-----

他市との比較

◆病床数・医師数  
(人口10万人あたり)

都市名	病床数 (床)	医師数 (人)	歯科医師 数(人)
郡山市	1,776.2	242.9	133.4
いわき市	1,464.3	174.3	65.9
秋田市	1,722.3	383.7	72.4
長野市	1,375.4	235.4	72.9

(資料：2016年3月作成 中核市都市要覧)

表1

病床数、医師数、歯科医師数は、同規模の都市と比べて同等数またはそれ以上です。



## ●種類別道路の路線数・実延長

2015年4月1日現在

表2

道路種別	道路名	路線数 (路線)	実延長 (km)
市道	1、2級 その他	8,556	3,288
	主要地方道	15	177.3
県道	一般県道	26	144.6
	小計	41	321.9
合計		8,597	3,609.9

高速道路	42.4Km
国道	77.6Km

道路実延長  
合計  
約3,730km

郡山市には、広い範囲に集落が分散し、道路延長距離が長いという特徴があります。

6



## II 郡山市のけがや事故

第2回「けがや事故に関する地域診断」より  
(2016年度実施)

7

## Ⅱ-1 病気以外の外因による死亡者数

郡山市



乳幼児・高齢者は「窒息」、10歳～79歳は「自殺」が第1位

表3

年齢層	1位		2位		3位		4位		5位	
0-9歳	窒息	3人	交通事故	2人	転倒・転落	1人				
			溺死・溺水	2人	煙・火・火災	1人				
10-19歳	自殺	10人	交通事故	4人	中毒	2人	煙・火・火災	1人		
20-29歳	自殺	70人	交通事故	7人	溺死・溺水	2人	転倒・転落	1人		
					窒息	2人	中毒	1人		
30-39歳	自殺	70人	交通事故	9人	煙・火・火災	2人	転倒・転落	1人		
					中毒	2人	窒息	1人		
40-49歳	自殺	92人	交通事故	17人	窒息	5人	中毒	4人	溺死・溺水	3人
50-59歳	自殺	106人	交通事故	18人	溺死・溺水	9人	窒息	8人	転倒・転落	5人
60-69歳	自殺	78人	交通事故	21人	窒息	16人	転倒・転落	12人	煙・火・火災	7人
70-79歳	自殺	47人	窒息	35人	交通事故	32人	溺死・溺水	22人	転倒・転落	14人
80-89歳	窒息	96人	転倒・転落	39人	溺死・溺水	33人	交通事故	19人	煙・火・火災	9人
					自殺	33人				
90歳以上	窒息	46人	転倒・転落	19人	溺死・溺水	7人	自殺	5人	交通事故	3人
全年齢	自殺	511人	窒息	212人	交通事故	132人	転倒・転落	93人	溺死・溺水	83人

※2009～2015年の死者数を合計しています。

郡山市保健所「人口動態統計2009～2015年(死因帳票)」より

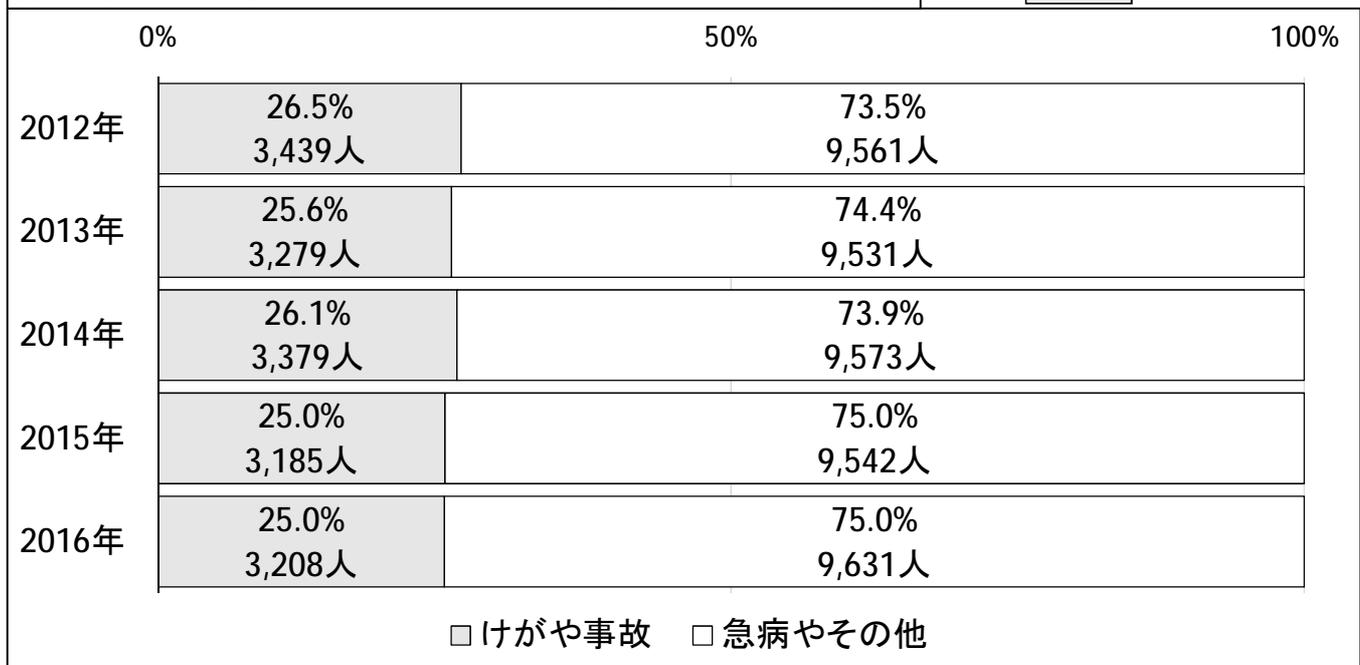
## Ⅱ-2 救急搬送からわかるけがの状況①

郡山市



郡山市の救急搬送に占めるけがや事故の割合の推移

図1



郡山地方広域消防組合 2010～2016年 消防統計より

けがや事故により救急搬送された人数は、救急搬送全体の約25%を占める状況が続いています。

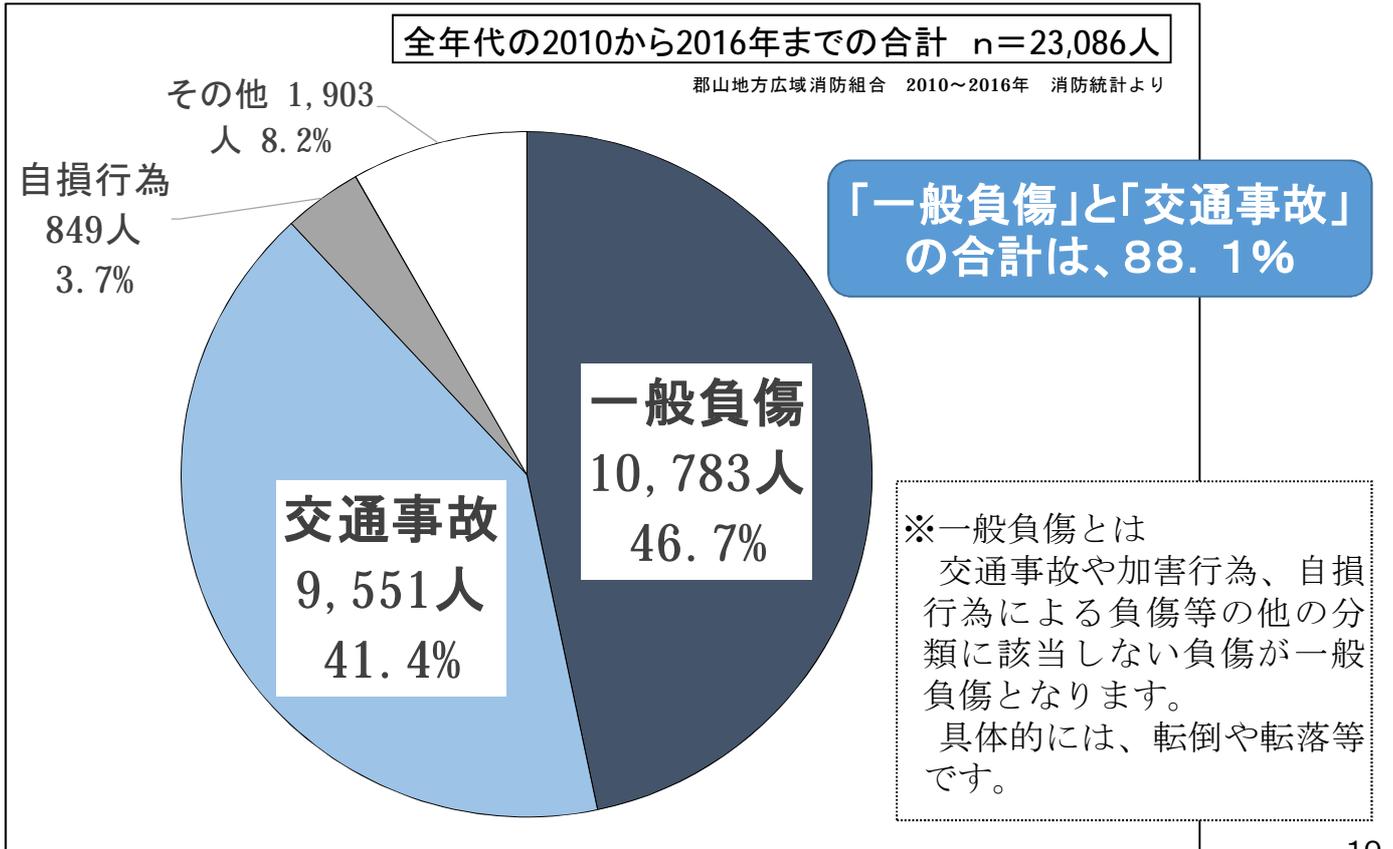
## Ⅱ-2 救急搬送からわかるけがの状況②

郡山市



### 郡山市の救急搬送者数 理由別人数及び構成比

図2



10

## Ⅱ-2 救急搬送からわかるけがの状況③

郡山市



### 郡山市のけがや事故による救急搬送要因の年代別順位

※2010から2016年の累計

郡山地方広域消防組合 2010~2016年 消防統計より

表4

順位	乳幼児 (0-6歳)	少年 (7-17歳)	就労世代 (18-64歳)	高齢者 (65歳以上)
1	一般負傷 877人	交通事故 1,129人	交通事故 6,355人	一般負傷 6,363人
2	交通事故 283人	一般負傷 499人	一般負傷 3,044人	交通事故 1,784人
3	加害 4人	運動競技 418人	自損行為 693人	自損行為 115人

「一般負傷」が多いのは、「乳幼児」と「高齢者」の年代で、「交通事故」が多いのは、「少年」と「就労世代」の年代です。

11

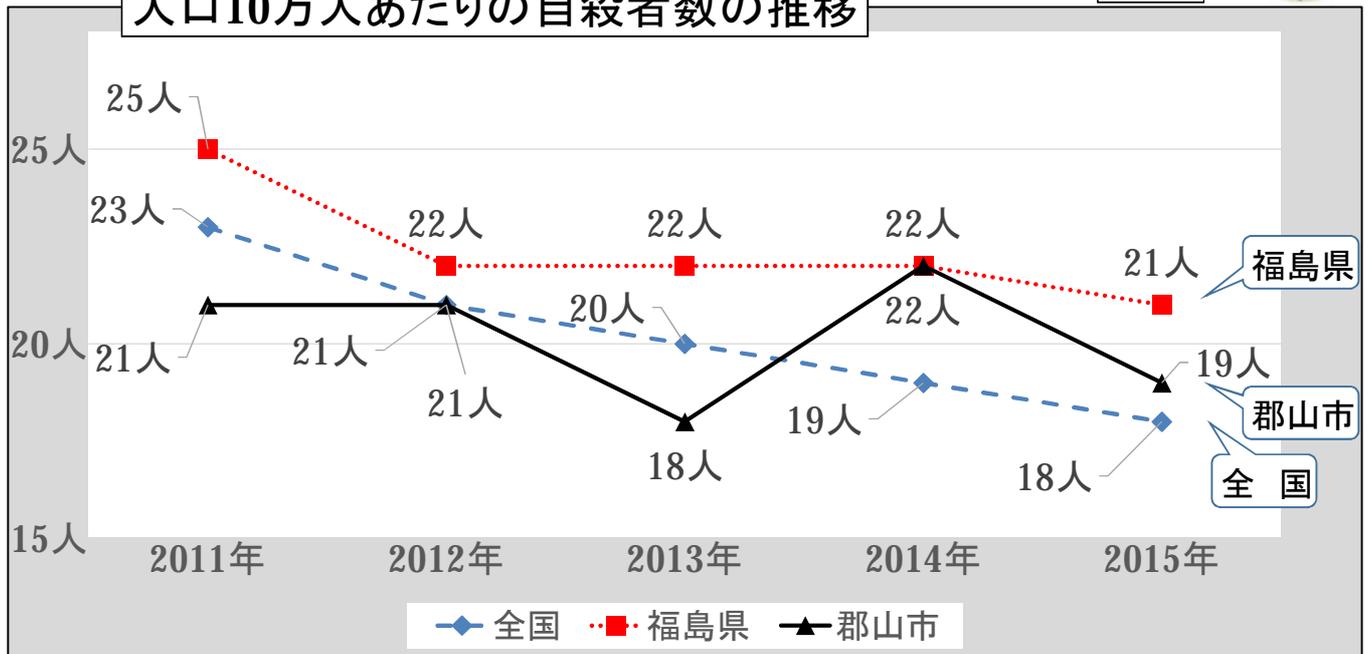
## Ⅱ-3 自殺者数の推移

郡山市



図3

### 人口10万人あたりの自殺者数の推移



郡山市保健所「2011年～2015年 人口動態統計」より

郡山市は、2013年までは、全国及び福島県よりも少ない状況でしたが、2014年以降は、全国よりも多くなっています。

12

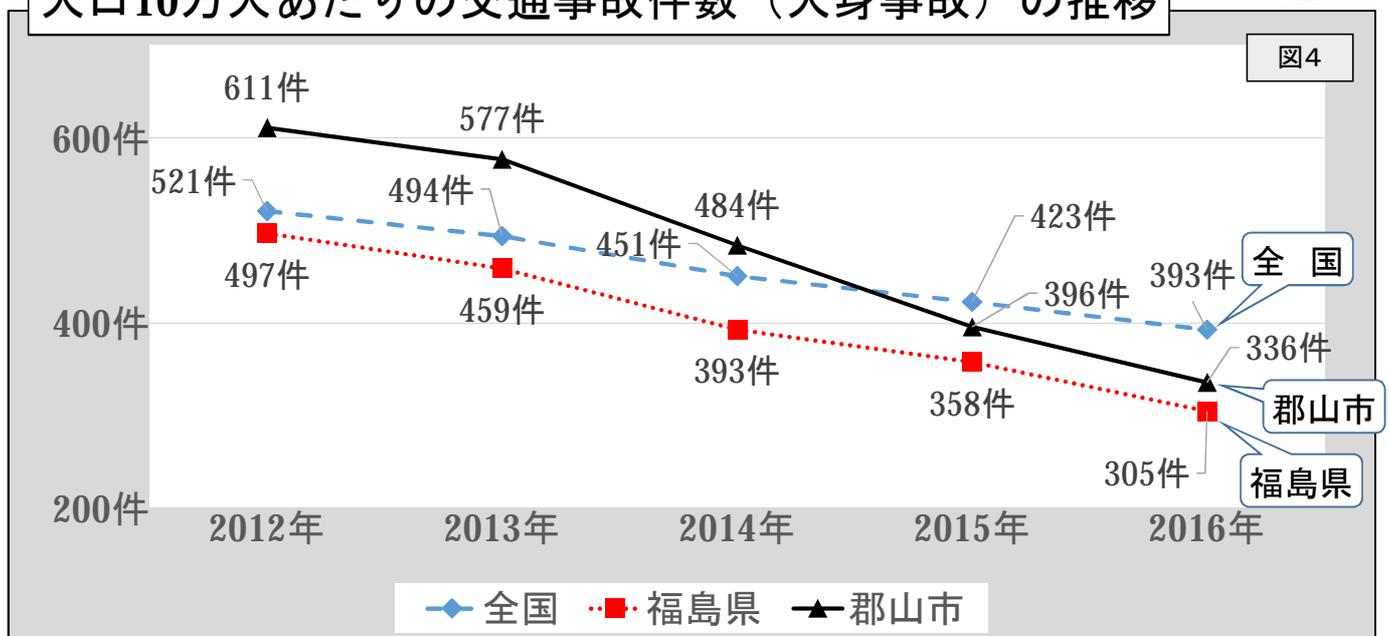
## Ⅱ-4 交通事故の発生状況①

郡山市



図4

### 人口10万人あたりの交通事故件数（人身事故）の推移



警察庁 警察白書2012～2015、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署2012～2016年 交通白書より

郡山市は、2014年まで全国及び福島県よりも多い状況でしたが、2015年に全国を下回りました。

13

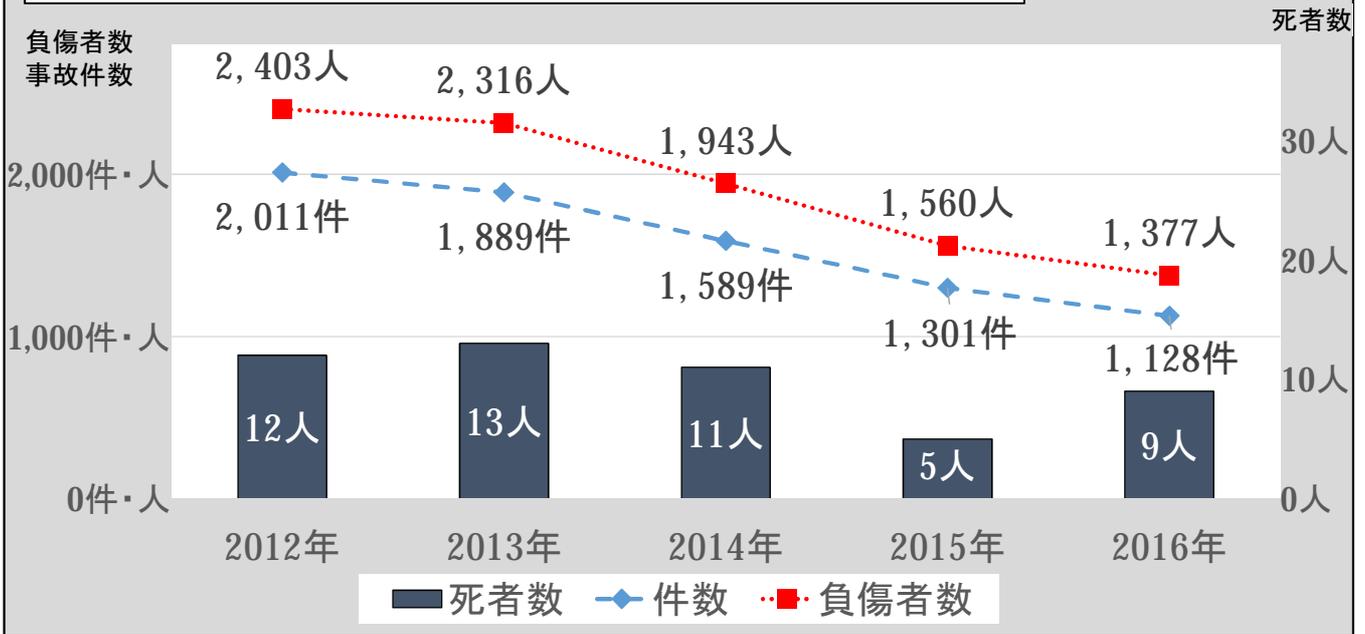
## II-4 交通事故の発生状況②

郡山市



### 郡山市の交通事故（人身事故）発生状況の推移

図5



郡山警察署・郡山北警察署2012～2016年 交通白書より

郡山市の交通事故は、減少傾向にあり、2012年の2,011件から2016年には1,128件となり、この5年間で44%減少しています。

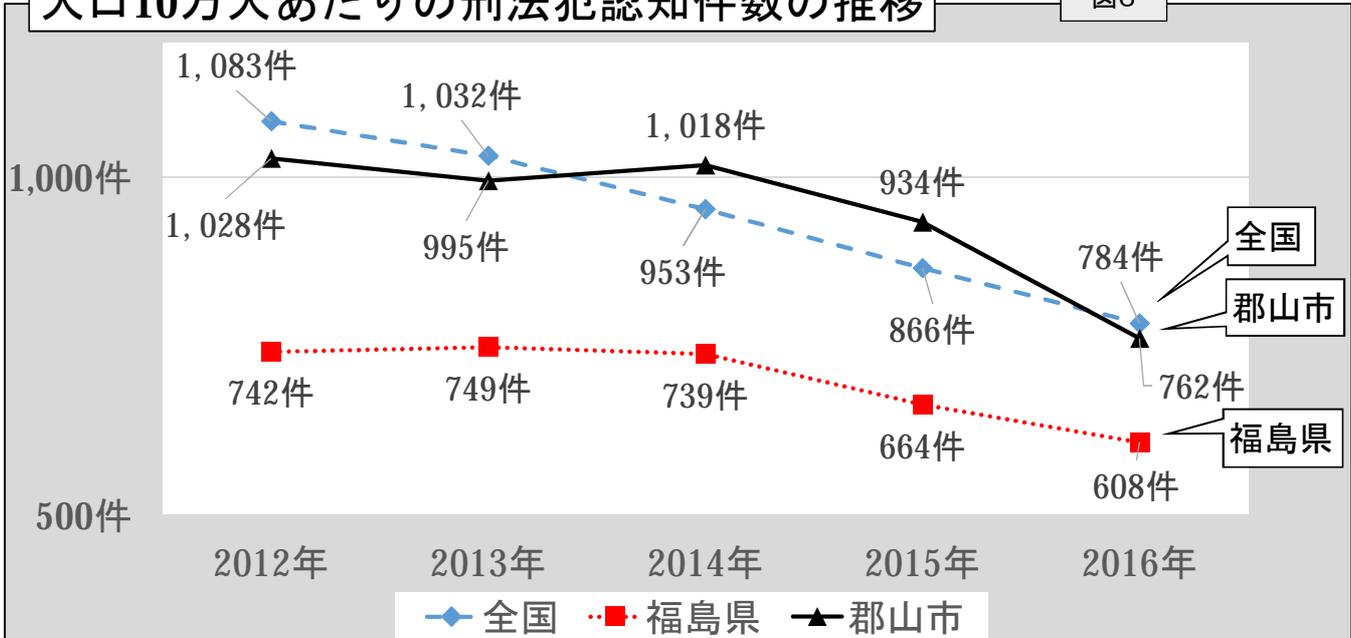
## II-5 犯罪の発生状況①

郡山市



### 人口10万人あたりの刑法犯認知件数の推移

図6



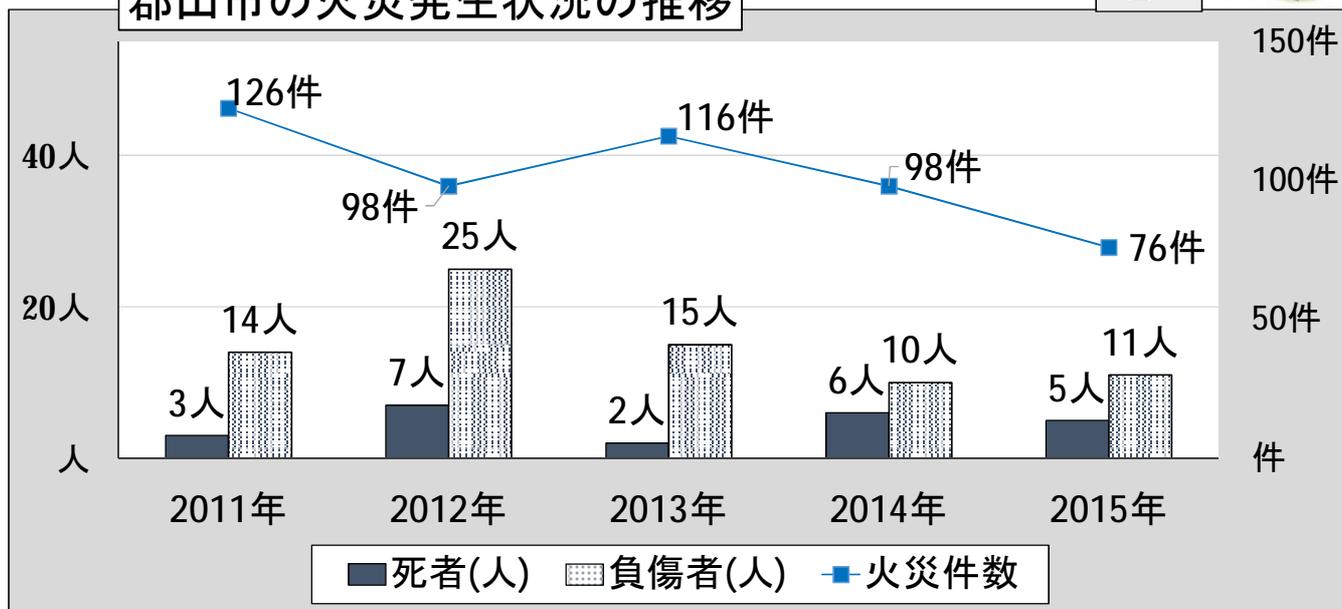
警察庁「2012～2016年 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「2012～2016年 地域安全白書」より

郡山市の犯罪発生率は、全国とほぼ同様の傾向です。しかし、福島県よりも約30%も多い状態が続いています。



郡山市の火災発生状況の推移

図7



郡山地方広域消防組合「2011～2015年消防統計」より

郡山市では、毎年100件前後の火災が発生していましたが、近年は減少が続いています。  
火災による死数者数は、増減を繰り返しています。



過去30年間の主な台風災害、水害

表5

発生年	降雨の原因	死者数	浸水建物数	避難者数
1986(S61)	台風	2人	3, 126件	1, 119人
1998(H10)	梅雨前線の活発化		1, 216件	5, 119人
2002(H14)	台風		406件	2, 067人
2004(H16)	台風		12件	928人
2010(H22)	発達した積乱雲		515件	2人
2011(H23)	台風		1, 684件	1, 763人

郡山市では、台風や集中豪雨等により、過去30年間で6回の大規模な被害が発生しています。



東日本大震災(2011.3.11発生)の被害状況

表6

●人的被害 死者1名 重傷2名 軽傷2名

●建物被害

	全壊	半壊	一部損壊	その他	計
公共施設	0	8	61	134	203
住家	2,294	18,749	32,062	168	53,273
店舗等	278	918	4,333	30	5,559
計	2,572	19,675	36,456	332	59,035

●道路・橋りょう・河川・農業施設等

亀裂	隆起	陥没	その他(護岸崩壊等)	計
789	160	997	755	2,701

●水道施設(震災発生直後)

漏水箇所 約1,000か所 断水戸数 約37,000戸(断水人口 約97,000人)

●下水道施設(震災発生直後)

被災管路延長 約7,050m マンホール等破損 536か所

東日本大震災は、郡山市にとっては、気象庁が観測を開始以来、初めての大規模な地震災害であり、甚大な被害をもたらしました。

Ⅱ-9 東京電力福島第1原子力発電所の事故①



郡山市と福島第一原子力発電所の距離

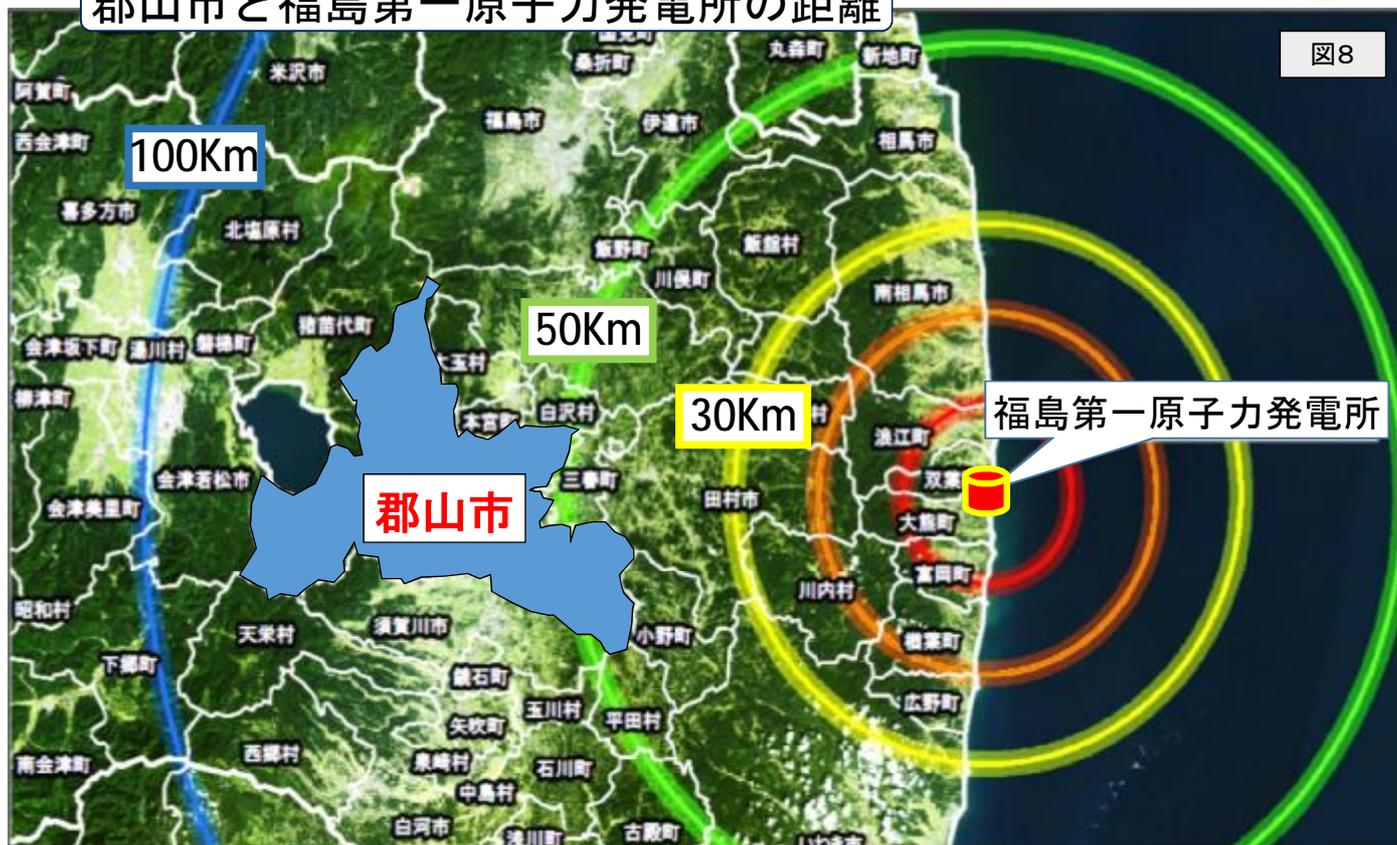


図8

## II-9 東京電力福島第1原子力発電所の事故② 郡山市



### ○原発事故による市民生活への影響 ※主なもの

- ・ 事故前の数値と比較して数十倍の放射線量となった。
- ・ 放射線による健康被害が発生するしきい値について、科学的な定説がなく、住民に著しい不安を生じた。
- ・ 輸送の中断によりガソリン等の日常生活物資が欠乏した。
- ・ 子どもたちの屋外活動が制限された。
- ・ 自主的に子どもたちを避難させたことによる家族の分離

これまでに放射線による健康被害は発生していません。

放射性物質という見えない敵と戦い、つる不安の中で、国内や世界中の皆さまからの多くのご支援が、私たちに勇気づけました。

20

## II-9 東京電力福島第1原子力発電所の事故③ 郡山市



### ○現在の状況

- ・ 子どもを中心に、自主避難を継続している方々があります。
- ・ 放射性物質の除染作業はほぼ完了しています。
- ・ 空間放射線量も著しく低下しています。

事故直後と現在の空間放射線量の比較 ※事故前 04~0.06  $\mu$ Sv/h 表7

測定場所	2011/3/29	2016/12/31	低減率
	空間放射線量率		
郡山合同庁舎	2.59 $\mu$ Sv/h	0.10 $\mu$ Sv/h	96.1%
郡山市役所	2.57 $\mu$ Sv/h	0.17 $\mu$ Sv/h	93.4%

郡山市の原子力災害対策(第12版2016.12.31現在)より

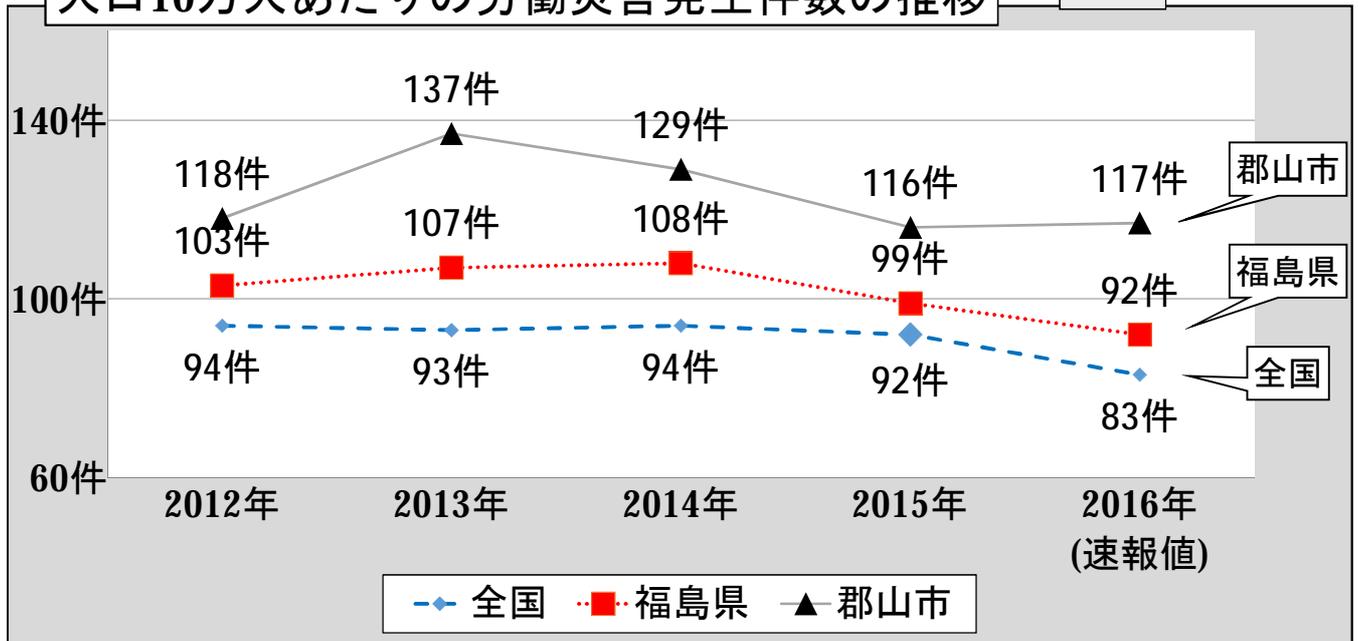
これまでに放射線による健康被害は発生していません。

21



人口10万人あたりの労働災害発生件数の推移

図9



厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「2012～2016年労働災害発生状況」より

人口10万人あたりの労働災害の発生件数の推移では、郡山市は、全国及び福島県を上回る状況が続いています。



## Ⅲ セーフコミュニティ活動



**郡山市の大きな課題**

- ① 東日本大震災からの復興、風評被害の払拭
- ② 全国や福島県より多い交通事故、犯罪、自殺等
- ③ 超高齢社会への対応

日本国内のセーフコミュニティ推進自治体の活動に着目し、セーフコミュニティ活動は、震災からの復興に全力を挙げている私たちにも必要な手法であると判断しました。

2014年11月4日 セーフコミュニティ活動に取り組むことを  
品川 万里 郡山市長が宣言

Ⅲ-2 推進体制の整備等



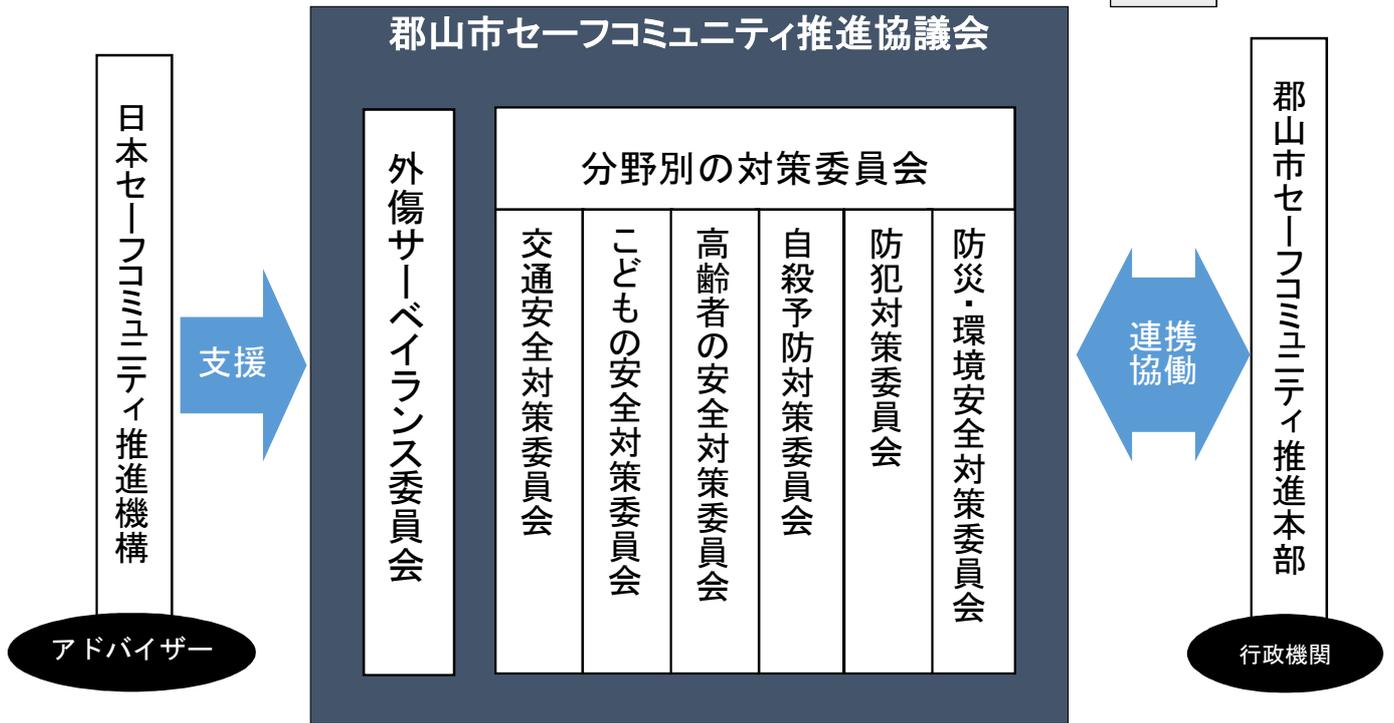
表8

年 月	内 容
2014年11月	市長によるセーフコミュニティ取組宣言 SCシンポジウムの開催
2015年1月	郡山市セーフコミュニティ推進本部を設置 (行政組織内の連携)
2015年3月	けがや事故に関する第1回地域診断実施、公開
2015年5月	郡山市セーフコミュニティ推進協議会を設立
	外傷サーベイランス委員会を設置
2015年7月	6つの分野に対策委員会を設置
2016年11月	郡山市セーフコミュニティ事前指導
2017年3月	けがや事故に関する第2回地域診断実施、公開



指標1 横断的な組織による協働・連携

図10



Ⅲ-3-① 郡山市セーフコミュニティ推進協議会



(分野の垣根を越えた全市的なS C推進母体)

設立日 2015/5/26 (開催状況 2015年2回、2016年1回 2017年1回)  
 会員数 43団体、機関 (代表者) 会長は市長  
 構成 市民活動団体、住民自治組織、教育団体、事業組合、行政、警察等  
 役割 方針決定、活動の推進、啓発など

図12





(各分野の課題解決を図る専門部会)

設置日 2015/7/8 (これまでに各対策委員会ごとに24~26回の開催)

A 交通安全対策委員会	12人	D 自殺予防対策委員会	11人
B こどもの安全対策委員会	15人	E 防犯対策委員会	15人
C 高齢者の安全対策委員会	16人	F 防災・環境安全対策委員会	14人



ワークショップを開催し、対策等を検討



(データ収集、分析、検証を行う専門部会)

設置日 2015/5/26 (2015年度2回、2016年度1回開催)

委員数 11人

構成 医師、大学教授(工学部)、保健所、警察、消防、労働等

役割 けがや事故に関するデータ等の収集、分析、提供  
セーフコミュニティ活動の検証 など



各分野の対策委員会からの中間報告



対策の根拠となるデータの検討等

### Ⅲ-4 既存の取り組みをセーフコミュニティ活動に活かす 郡山市



指標2 全ての市民・市域・環境・状況を対象に長期的・継続的に取り組む

表9

分野	子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)	
家庭	育児相談、講座 育児支援家庭訪問	ボランティア養成	生活習慣改善指導	介護予防体操	
学校	避難訓練	通学路見回り点検	社会人講座	高齢者講座	
職場	育児休暇等の支援	労働相談	メンタルヘルス対策	避難訓練	救命救急講習
交通	街頭指導 交通安全教室	運転免許更新時講習	交通違反の取り締まり、指導	交通安全教室	ラジオ等での安全運転呼びかけ
公共	法令の改正、道路環境整備、維持管理 バリアフリー化(段差解消)	建物の耐震化	交通規制	信号機設置	AEDの設置及び講習会の開催
自殺	いじめ相談	ゲートキーパー養成講座	自殺予防相談		
暴力・虐待	関係機関の連携と情報共有		電話、窓口相談		
犯罪	犯罪者の検挙		防犯パトロール	防犯設備の普及啓発	

30

### Ⅲ-5 データを分析し、対象を絞り込む 郡山市



指標3 リスクの高い集団・環境への取組

活動の例

郡山市の人口1万人あたりの刑法犯認知件数  
2015年 13地区別の比較



図12

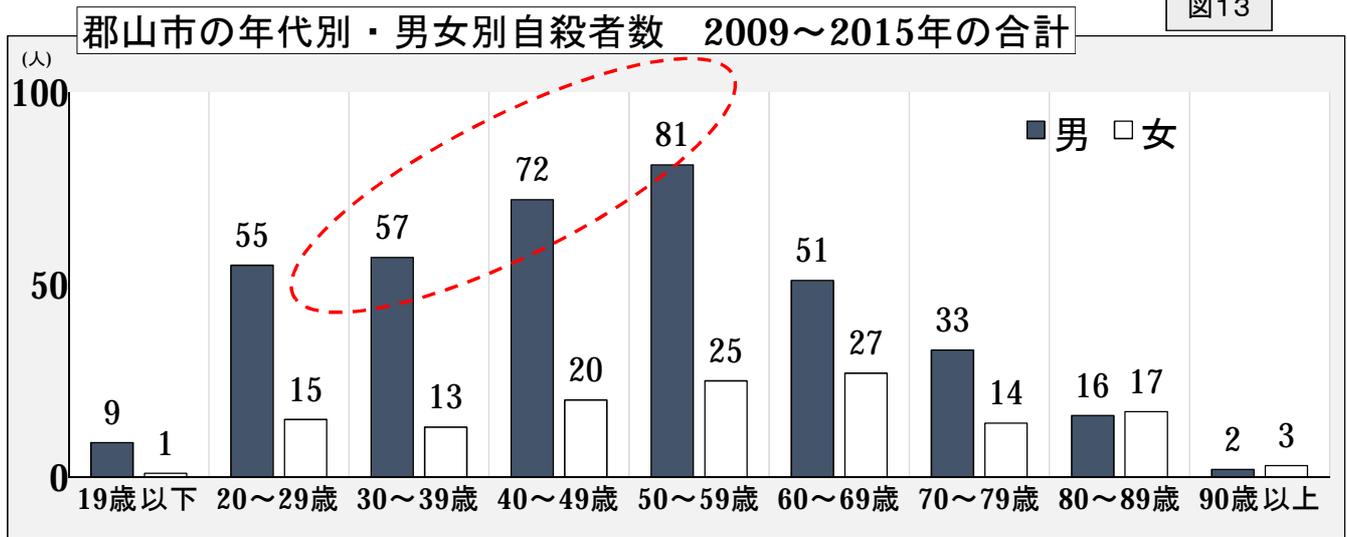
犯罪発生率の高い地区を明確にしました。毎年実施しています。

31



指標4 根拠に基づいた取り組み

図13



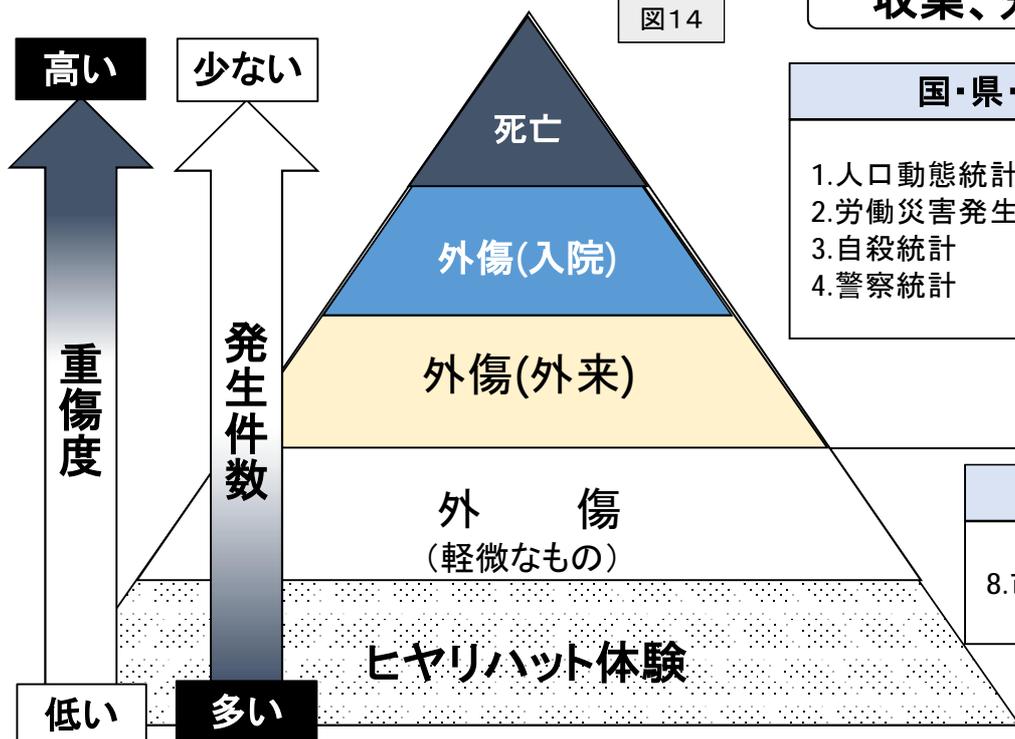
郡山市保健所 「2009年～2015年 人口動態統計（死因帳票）」より

30歳代から50歳代の男性に自殺者が多い。  
自殺予防対策委員会が重点課題の一つに選定



指標5 外傷の頻度原因を記録する仕組み

図14



収集、分析するデータ

国・県・市の統計データ

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1.人口動態統計   | 5.交通白書    |
| 2.労働災害発生状況 | 6.地域安全白書  |
| 3.自殺統計     | 7.救急搬送データ |
| 4.警察統計     | 等         |

アンケート調査

- |                 |
|-----------------|
| 8.市民意識調査(アンケート) |
|-----------------|

### Ⅲ-8 活動の成果測定、評価指標の設定等 郡山市



指標6 内容・行程・効果を評価する仕組み

各分野の対策委員会では、PDCAサイクルによる活動の成果測定と評価、改善と反映を行っています。

取組の効果を測定するため、短期・中期・長期の指標を設定し、評価を行っています。

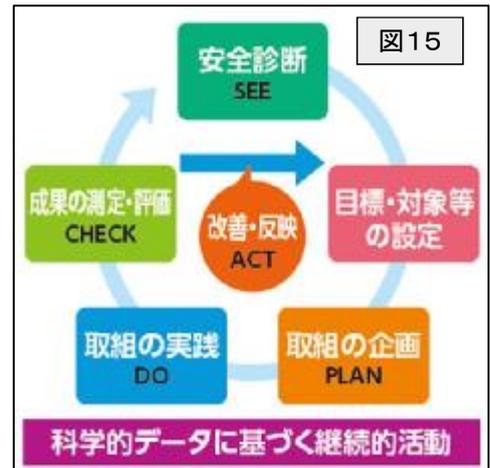


図15

活動の成果測定、評価指標の例(こどもの安全対策委員会)

表10

重点課題	取組	活動指標	成果指標	
			短期・中期	長期
7歳から17歳(小学生から高校生)の交通事故が多い	交通事故多発地点マップの作成及び配布と啓発活動	配付枚数 配布先数	事故多発地点の認知度 交通安全意識の変化	こどもの交通事故件数

### Ⅲ-9 セーフコミュニティネットワークへの参加 郡山市



指標7 国内外へのセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

#### 2015年

- ・現地審査(秩父市、厚木市、鹿児島市、甲賀市)
- ・事前審査(泉大津市)
- ・認証式典(厚木市、秩父市)
- ・第22回セーフコミュニティ国際会議2015(タイ・ナーン市)

#### 2016年

- ・現地審査(泉大津市)
- ・事前審査(箕輪町)
- ・認証式典(鹿児島市、甲賀市)
- ・2016年台湾セーフコミュニティ発展推進会議(台湾・台北市)



#### 3市合同研修会(2016)

#### 甲賀市認証式典(2016)

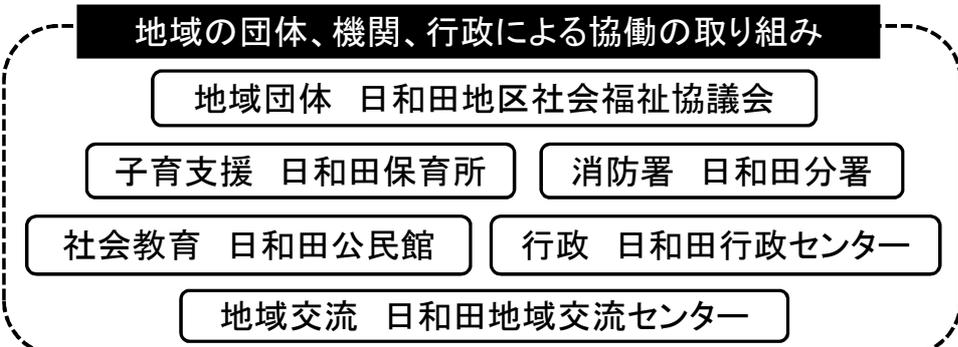
#### 泉大津市現地審査(2016)





今後は、郡山市内各地の協働による安全確保の取り組みの良いところをセーフコミュニティ活動に取り入れていく。

取組の例 郡山市日和田町「ふれあい防火教室」



- 目的
- ①防火、防災
  - ②子どもたちの育成、見守り活動の普及
  - ③高齢者のいきがい再確認

一言でいえば  
「まちづくり」

地域の将来を担う子どもたちを育む保育所と、地域社会をけん引する行政機関、災害から市民を守る消防機関が協力し、地域交流の場である交流センターを会場に、こどもと高齢者が時間と場所を共有し、微笑みとくつろげるような交流の中で、子どもたちには、「人を思いやる心」と「火事を起こさない心」を、高齢者の方々は、「こどもたちを見守る生きがい」を再確認していただく。

郡山市日和田町「ふれあい防火教室」 2016年



子どもたちの歌やお遊戯



消防士と子どもたちによる寸劇



子どもたちの掛け声のもと  
全員による「防火の誓い」



子どもたちから高齢者へ 防火の手紙



2017年度中に策定する基本指針においても引き続き、「セーフコミュニティの推進」を重要施策として位置付ける予定です。

無作為抽出で選ばれた市民によるワークショップ  
未来の郡山市を描き出す「あすまち未来会議」



ワークショップによる郡山市の未来像

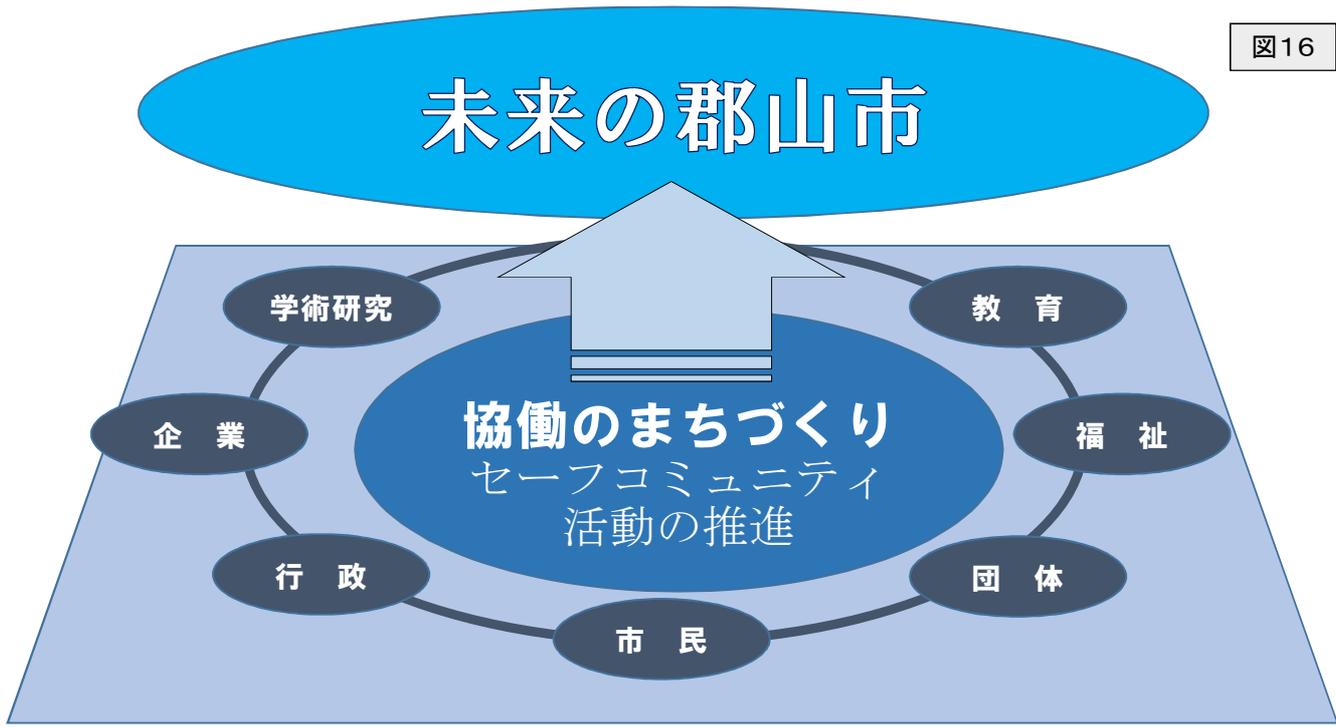
- ・夜でも安心して歩ける
- ・寂しさを感じない
- ・子どもたちが安全に遊べる
- ・災害情報が簡単に手に入る
- ・街中どこでもバリアフリー
- ・市民同士が協力し合う
- ・認知症への理解を深める

等



郡山市は、市民と行政、団体や機関の協働により未来の郡山市を創造していく「市民総活躍」のまちです。

図16





ご清聴ありがとうございます



郡山市  
イメージキャラクター  
がくとくん

イメージキャラクター  
がくとくんの妹  
おんぷちゃん

東北のウィーン

楽都郡山